

年 末 市 長 訓 示 概 要

平成25年12月27日（金）午後1時
本庁舎8階大会議室A

平成25年の仕事納めにあたり、本年の締めくくりとして、職員の皆さんにお話しします。

まず、津市政をあずかる立場で、この1年間を振り返り、今年の漢字を選んでみました。

それは、「曳」（ひく）です。

この漢字は、今年の3月29日から31日にかけて行われた20年に1度の「香良洲お木曳き行事」から採りました。

3日間で延べ1万8千人の皆さんに香良洲町へお出かけいただきました。香良洲町の9区の方々が心を合わせた見事な掛け合いを披露しながら、お木曳き車を曳きまわす姿に、町の歴史の歩みと区民の皆さんの心の繋がりに深く感銘を受けました。

このような代々伝わる歴史と伝統を、今後も新たな世代へと「引き継ぐ」、「受け渡していく」という願いも込めてこの1字を選びました。

また、「曳」という字には、引っ張る、引き寄せるという意味があります。

まさに今年は、5月に平成33年に三重県で開催が予定されている国体でのバレーボール、バスケットボール、レスリング、柔道、なぎなた、ボウリングの6競技の会場地として本市が選定され、6月には外資系企業の誘致、11月にはボートレース津で8年ぶりとなるSGチャレンジカップが開催されるなど、本年は津市政に対しても、さまざまな好機（チャンス）を「曳

く」ことができた年であったと思います。

さて、私は、今年の仕事始め式において、皆さんに、市民が「こうしてほしい」、「こうありたい」と望まれることを当たり前のように迅速に形にしていく市政、これを実現していくことが津市職員のミッションであると伝えました。

そして、市政推進の決意として、「対話する市政」「前進する市政」「決断する市政」の3つを掲げ、この決意を、職員の皆さんと共有するため、管理職員の研修においても、さらに職員研修においても、私の思いを話しました。今年進めていただいた様々な取組は、職員の皆さんが私の言葉をしっかりと受け止めていただいたからこそ、力強く進めることができたのだと思います。

まず、「対話する市政」の取組についてです。

今年も、私はもちろんのこと、職員の皆さんもあらゆる機会を通じて、市民との対話があったと思います。

その対話のなかから生まれたアイデアを実現したものとして、香良洲高台防災公園については、地元の自治会や地域審議会の皆さんからご要望を頂いたことから、3月15日に高台整備の構想を発表しました。

また、中心市街地来街感謝券の発行は、津センターパレスへの4つの公共施設のオープンに伴い、商店街の皆さんとの対話のなかで、利用される方を街へ引き出してほしいとの声を伺ったことにより、実施につながったものです。

一志地域の波瀬川については、避難のあり方を実態に見合った形にしてほしいという地域の皆さんの声を受け、避難勧告・避難指示の発令基準と対象地域を見直し、9月1日から運用を開始しました。

これらは、対話を基本に、どうしたら市民の皆さんに満足していただける行政サービスが提供できるかを考え、そして実行に移した結果、実現できたものです。

庁内協議から生まれた施策もありました。

育児休業代替任期付職員については、4月1日から制度化しました。これは、市民の皆さんに適切に行政サービスを提供していくため、出産、育児を行いやすい職場づくりを進めるために実施したもので、現在、21人の職員が即戦力として活躍しています。

また、東京日本橋の「三重テラス」での「つデイ」の開催は、毎月1回実施することになり、既に3回好評のうちに終わることができました。

次に「前進する市政」の取組についてです。

まず、4大プロジェクトについては、事業の進捗が目に見える形になりました。

新斎場については、9月から本体工事を始めました。

新最終処分場については、第1期分の施設整備として10月から造成工事を始めました。

リサイクルセンターについては、7月から敷地造成工事を始めました。

JR名松線については、5月30日からJR東海による軌道復旧工事が始まりました。

津市産業・スポーツセンターについては、4月からは進入道路の整備、6月からは駐車場整備を始めました。

本体の建設工事の入札が2度にわたり中止になりましたが、再設計と再積算を行うよう指示しました。予算を見直し、市議会に提出できるよう必要な手続きを進めていかなければなりません。

4大プロジェクト以外の事業でいえば、国の事業では、平成25年度当初予算において、中勢バイパスの整備で66億1千万円、栗真町屋工区、阿漕浦・御殿場工区の海岸堤防整備で8億円、雲出古川の河川堤防整備で10億円が計上されていましたが、3月に成立した平成24年度補正予算により、中勢バイパスで54億5千万円、海岸堤防で1億8千万円、河川堤防で3億2千万円がそれぞれ追加され、これら3つの事業は大幅に進みました。

中勢バイパスは来年度に津市域内の工区がほぼ全線開通予定となり、昨年12月から本体工事が始まった栗真町屋工区の海岸堤防は工事がさらに進みました。

また、雲出古川の河川堤防についても、右岸の稲葉高潮堤防工事に引き続き、今年9月からは左岸の伊倉津高潮堤防工事が始まりました。

その他市の事業では、老朽化が進む社会資本への対策として、3月に津市舗装維持管理計画、津市橋梁長寿命化計画、津市下水道長寿命化計画をそれぞれ策定し、道路に関しては市道南グリーンロード線などの舗装工事、下水道に関しては丸之内及び大門地内下水管更生工事などに取り組み、予防保全的な維持修繕事業の強化を図りました。

小・中学校トイレの洋式化については、今年度3億5千万円を投じ、栗真小学校、一身田小学校、片田小学校、敬和小学校、西橋内中学校の改修

を行いました。平成 29 年度までに、小学校 18 校、中学校 7 校を改修することになっています。

また、7 月 1 日からは、津市生活・介護支援サポーターの皆さんによる高齢者見守りサービスを開始し、新たな住民参加型の高齢者福祉サービスの展開をスタートしました。

がん検診などについては、受診期間を 3 月まで延長し、受診率の向上に向けた取組を進めることができました。

獣害対策についても、地域の皆さんとの連携による取組を強化し、サル、シカ、イノシシの駆除実績も、昨年 1,481 頭であったものが、今年 11 月末時点で 1,664 頭と大幅に増加するとともに、獣害対策協議会の設置についても 5 つの協議会が新設されました。

計画された事業は、着実に進めることができたものと思います。

最後に「決断する市政」の取組についてです。

まず、第三セクターの経営改革です。過去から経営に一定の距離を置き、現状を維持することに囚われてきたきらいがあります。

津センターパレスは昭和 60 年に、ポルタひさいは平成 10 年にそれぞれ、旧津市、旧久居市が大いに関与をして設立した第三セクターであり、経営危機に直面した状況のなかで、この資産を「何とかして活用する」ということが、今の津市政の責任でありました。その考え方のもと、厳しい決断を行い、津センターパレスについては、まん中こども館を 7 月 1 日に、中央公民館を 9 月 1 日に移転開設し、一連の移転整備を完了することができました。

また、ポルタひさいについても、7月1日に久居都市開発株式会社が所有する不動産を取得し、その結果、市が同社の債務を補償することを回避することができました。

次に、外的な圧力と申しまししょうか、突き付けられた現実を受け入れなければならなかった苦渋の決断です。

職員給与の削減については、国家公務員の給与削減に伴う地方交付税の削減という、地方分権に反した地方自治体の財政自主権をないがしろにした受け入れがたいものでしたが、市民の皆さんに負担を転嫁することのないよう、特別職と一般職の給与を総額約2億2千万円削減することを決定し、10月から実施しました。皆さんが、この苦しい決断を受け入れていただいたことに深く感謝いたします。

これまで実施してきた事業を、より良い方向に転換していくための前向きな決断もありました。

例えば、外資系の企業誘致です。外資系企業は、交渉相手のトップの考えを早く求めます。したがって、早い段階でトップ同士が会い、直接交渉することが最も効果的です。そこで、外資系の日本マイクロサーム株式会社の誘致については、2月28日にトップ会談を行った結果、6月27日、津市への本社移転を伴った誘致に成功しました。

また、ボートレース津については、場内売上額が平成2年の503億円をピークに右肩下がりとなり、平成22年に127億円となるなかで、攻めの経営姿勢への転換を行いました。平成23年には「津インクル」を開設し、併せて大型映像装置、券売機を新しくする設備投資を行った結果、売上額がV字回復を遂げ、11月に開催したSGチャレンジカップでは、場内売上額

6億円を達成することができました。

総合支所については、市町村合併後、権限、財源、人員の本庁への集約による効率化を実現する一方で、地域住民から総合支所を身近な存在にとの声がありました。

そこで、総合支所へ一定の権限や財源、人員をシフトすることを決定しました。

これらはすべて大きな決断でしたが、この成果は、職員の皆さんの努力によって成し得ることができたものです。

社会情勢が大きく変化する時代、職員の皆さんが、ともに壁にぶつかり、試行錯誤しながらの一年であったと思います。

そのようななか、年始に言いました私の思いを皆さんが受け止め、さまざまな政策課題と真摯に向き合い、着実に成果が表われたことを実感した1年でもありました。

その一方で、職員の皆さん自身が、行政のプロとしての自覚やチェックの大切さを重く認識せざるを得ない事態もありました。

職員の飲酒運転については、組織の「ゆるみ」について市役所という組織がさらに市民に信頼される、もっとレベルの高い組織になるべきことを、また、産業・スポーツセンターの本体建設工事の2度にわたる入札中止については、今までの常識で対応してきたものが通用しなくなったことを、プロ意識を持って対応することの重要性を、改めて再認識されたと思います。

職員の皆さんは、これらをしっかりと乗り越えて、来年は次のステップへと進んでいただきたいと思います。

一年間の業務、大変ご苦労さまでした。

今年もあとわずかになりました。年末年始の休暇期間中にもかかわらず職務に従事をしていただく職員の皆さんには誠に御苦労さまですが、よろしくお願ひいたします。

職員の皆さん、そして、御家族にとって、来年が本年にも増してより良い年となりますことをお祈りいたします。

一年間、本当に、ありがとうございました。